

# ICT実践事例・修正指導案


## 本時の学習指導過程


**本時のねらい** 学校生活でのよいことについて、教材からよいことをしている子や悪いことをしている子を見つけたり、よいと思ったことをするとどんな気持ちになるか考えたりすることを通して、進んでよいことを行おうとする実践意欲と態度を育てる。

**評価の着眼点** 教材からよいことをしている子や悪いことをしている子を見つけたり、よいと思ったことをするとどんな気持ちになるか考えたりしている。

**具体的な児童の姿** 「掃除をした時、すっきりして気持ちよくなった。」  
 「落とし物を拾った時、「ありがとう」と言われて嬉しかった。」  
 「本棚の本を揃えた時、これで次に使う人が使いやすくなるからいいなと思う。」

時間	児童の活動	指導○及び留意点・ ◎評価〈方法〉※支援を要する児童への手立て	準備物
4分	1. するとよいと思うことや、悪いことについて話し合う。	○教室や学校の様子を写真で提示し、ねらいや教材に意識を向けられるようにする。 ・一つ一つの写真についてよいことか悪いことか問い、本時がよいことと悪いことの判断について考えていくことを意識するようにする。 ・よいことをした経験を問い、その時の気持ちを確認し、めあてを位置付ける。	
<b>めあて</b> よいとおもったことをするとどんなきもちになるかかんがえよう			
8分	2. 「よいこととわるいこと」を見て、よい行動やその行動の理由を話し合う。	○「よいこととわるいこと」を提示し、よい行動やその行動の理由について考えるようにする。 ・全体の絵をTVで示す。その後児童の発言に合わせて、該当する箇所の挿絵を黒板に掲示していく。	挿絵（全体） 挿絵（該当箇所）
<b>基本発問</b> どうしてよいことだとおもったのかな。			
		<b>【想定される児童の姿】</b> ・花に水をあげている子は、生き物を大切にしているから。 ・一輪車に乗るのを助けている子は、友だちが嬉しくなるから。 ・ボールを片付けている子は、次に使う人が使いやすいから。 ・転んだ友だちを助けている子は、優しいから。 ・児童が挙げたよいことの根拠を板書することで、よいことがみんなのためになっていることを共通理解できるようにする。 ・補助発問として、「よいことを見たらどんな気持ちになるか」と問い、よいことをすると誰もが気持ちよくすごせることを感じるようにする。	
8分	3. 悪い行動や、どうすればよかったかについて話し合う。	○「よいこととわるいこと」の中から、悪い行動や悪いと思う理由について考えるようにする。	挿絵（全体） 挿絵（該当箇所）
<b>基本発問</b> どうしてわるいことだとおもったのかな。			
		<b>【想定される児童の姿】</b> ・うんていで割り込んでいる子は、並んでいる子が嫌な気持ちになるから。 ・窓からゴミを投げ捨てている子は、学校が汚くなるから。 ・友だちに水をかけている子は、友だちが嫌な気持ちになるから。 ・窓から校舎に入っている子は、落ちると危ないから。	

<p>15分</p>	<p>4. よいことをした時の気持ちについて考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が挙げたわるいことの根拠を板書することで、わるいことが自分やみんなの困りにつながることを共通理解できるようにする。</li> <li>・補助発問として「どうすればよかったか」と問い、悪いことをしている子に対しての非難に終始しないようにする。</li> </ul> <p>○児童自身がよい行いができた経験や、その時の気持ちを問い、よいと思うことをした際のすがすがしい気持ちになることを共有できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・挿絵のようなことをした経験があるかを問い、特によいことをしたときの経験を問うことで、そのときの自分の気持ちについて考えるようにする。</li> </ul>	<p>iPad (表情の絵)</p>
<p><b>中心発問</b> よいことをじぶんからしたとき、どんなきもちになったかな。</p>		<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>【想定される児童の姿】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部屋の掃除をした時、気持ちよくなった。</li> <li>・友だちが落とした物を拾ってあげた時、「ありがとう」と言われてうれしかった。</li> <li>・本棚の本を揃えた時、みんなが使いやすくなるからいいなと思った。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・よいと思うことをした時の気持ちについて、iPadのロイロノートの絵文字の表情から合うものを選ぶようにする。</li> <li>・ペアや全体で、絵文字の表情を基によいことをした経験やその時の気持ちを話し合うようにする。</li> </ul> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合う際には、表情を選んだ理由を話すことで、行為と気持ちをつなげて考えるようにする。</li> <li>・例として、3つの取り組み（挨拶、掃除、履き物揃え）の経験を取りあげ、行為とその時の気持ちを考えることで、児童がその後の交流のイメージをもつようにする。</li> <li>・児童のそれぞれの気持ちを共有できるように、自分が選んだ表情を教師機に提出するようにする。</li> <li>・表情の背景を色分けし（笑顔…黄色、悲しみ…青、怒り…赤）、一覧で表示したときに、違いが明確になるようにする。</li> <li>・同じような表情が出た場合、補助発問として本当にその表情だけかを問い、単純な気持ちよさだけでなく、多様な気持ちに気付くようにする。</li> </ul> <p>※考えを持ちにくい児童がいた場合は、学校で行っている3つの取り組み（挨拶、掃除、履き物揃え）の経験</p>	

10分	5. 本時の振り返りをする。	<p>を想起するようにし、その時の気持ちを振り返るようにする。</p> <p>○「これからどんなよいことをしたいか」を問い、具体的な場面を想定することで自分事として考えるようにし、発言をペアや全体で認めていく。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>基本発問</b>   これからどんなよいことをしたいですか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<del>児童のそれぞれの考えを共有できるように、児童がロイロノート</del>のテキスト上に考えを書き、教師機に提出するようにする。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・一つの考えに集約するまとめは行わない。</li> <li>・よいことをすることは大切だが、人はよいことがうまくできなかったり、反対に悪いことをしてしまったりすることもあることを確認する。</li> <li>・全員が発言できるようにペアで話すようにする。</li> <li>・全体では、どうしてそう思ったかを問い、進んでよいことをしようとする児童を認めていく。</li> </ul>	iPad (ワークシート)
-----	----------------	---	------------------

**C1 発表や話し合い, C2 協働での意見整理**

一人一台端末の活用が効果的だったか

- 言葉で表現できない児童には、絵文字が効果的だった。
- 絵文字を使うことで、交流ができたペアがいた。
- △絵文字について話し合った後の話が深まらなかった。
- △最後の振り返りの段階で、行為のみで語る児童が多かった。

## ICT を活用した学習場面

### C1 発表や話し合い, C2 協働での意見整理

特別の教科 道徳

1年3組 藤井 陽祐

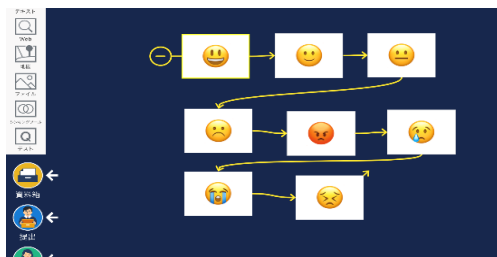
**本時のねらい** 学校生活でのよいことについて、教材からよいことをしている子や悪いことをしている子を見つけたり、よいと思ったことをするとどんな気持ちになるか考えたりすることを通して、進んでよいことを行おうとする実践意欲と態度を育てる。

**評価の着眼点** 教材からよいことをしている子や悪いことをしている子を見つけたり、よいと思ったことをするとどんな気持ちになるか考えたりしている。

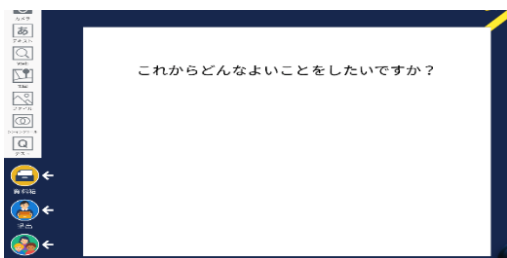
### 指導の流れ

#### 児童の活動 (ICT 活用の様子)・ICT 活用のねらいや留意点

1. 提示された教室や学校の様子の写真から、ねらいや教材に意識を向け、本時のめあてを確認する。
2. 「よいこととわるいこと」を見て、よい行動やその行動の理由について考える。
3. 「よいこととわるいこと」を見て、悪い行動や悪いと思う理由について考える。
4. 自身がよい行いができた経験や、その時の気持ちを考え、よいと思うことをした際、すがすがしい気持ちになることを共有する。
  - ・よいことをした時の気持ちを絵文字で視覚化することにより、児童が自分の考えを相手に伝えやすくするとともに、友だちの多様な考えを知るきっかけとするため、児童がよいことをした経験を話し合う際に、ロイロノート上にその時の気持ちを表情の絵文字で表し、その表情を選んだ理由とともに話し合うようにする。



5. 「これからどんなよいことをしたいか」を問い、具体的な場面を想定することで自分事として考えるようにし、発言をペアや全体で認めていく。
  - ・教師がそれぞれの児童の考えを共有したり、授業中発言の無い児童の考えを取り上げたりすることで、一人一人の考えを認め意欲を高めていくとともに、児童が自分の考えを蓄積していくために、児童がこれからどんなよいことをしたいかをロイロノートのテキストに理由とともに記述する。



### ICT 活用の効果 (困りが解決されたか)

**【成果】** 表情の絵文字を使って話し合いをすることが、この段階の児童にとって考えを持ちやすく、効果的であることが分かった。また、一覧で提示することで他の児童との表情の違いに気付くことができ、その後の価値理解につながった。

**【課題】** 現段階では1年生という発達段階もあり、文章の記入に時間がかかるため、振り返りで行為の理由となる気持ちについて十分な交流ができなかった。今後は一人一台端末を児童が使う場面を精選していく必要がある。